

岩手県八幡平鴨田川源流域湿原及び夜沼のクモ

渡辺修二・鈴木まほろ

Spiders in the wetland upstream of the Kamoda River and the grassland at the edge of Lake Yonuma in Hachimantai City, Iwate Prefecture

Shuji WATANABE and Suzuki MAHORO

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

Abstract

We collected 7 species of spiders from 6 families in the wetland upstream of the Kamoda River (Kamoda Wetland) and 7 species from 3 families in the grassland at the edge of Lake Yonuma and the trail along the Yonuma River in Hachimantai City.

はじめに

八幡平に生息するクモ類の調査記録は、福島(1997)や奥村(2016)、片岡(渡辺 2021)などがあるが、クモ相全体を明らかにする網羅的な調査は行われていない。今回、八幡平のクモ相解明の一助とするため、八幡平(岩手県八幡平市松尾寄木)の鴨田川源流域湿原及び夜沼周辺で調査を行った。

鴨田川源流域湿原は、八幡平市の西方を流れる鴨田川の源流域にあたる標高約 800 m 付近に位置し、面積は 5.7 ha、南北約 60 m、東西約 300 m で、十数個の小規模な沼が点在している。第 5 回自然環境保全基礎調査・湿地調査(環境庁自然保護局 1995)の調査対象であるが、詳細調査の対象ではなかったため生物に関する調査は行われなかった。また、このほかの調査記録は確認できなかった。

夜沼は茶臼岳の南側、標高 1,190 m に位置し、面積は約 0.02 km²、最大水深は約 2 m である(吉田ほか 1989)。南側に流出口があり、ここから流下する沢は夜沼川に合流する。沼の北東側には湿地が広がっている。夜沼及びその周辺では水草(井上 1986)やガ類(土井 2005)が調査されているが、クモについての調査記録はない。

方法

鴨田川源流域湿原では、2019 年 9 月 6 日及び 9 月

20 日、2020 年 7 月 21 日に、湿地全体で見つけ取りによりクモを採集した。夜沼では 2020 年 9 月 3 日に、沼からの流出口近くの小規模な草地(39.937405N, 140.903560E 付近)及び夜沼川沿いの山道(39.927667N, 140.904694E 付近)で、見つけ取りによりクモを採集した。

採集した標本は、約 70% のエタノールを入れたスクリュー管に入れて保管した。標本の同定は小野(2009)を参照し、双眼実体顕微鏡(Nikon SMZ745)で検鏡して、オスは触肢、メスは外雌器の構造をもとに同定した。幼体の標本のうち、斑紋等で判別可能なものは種まで同定したが、それ以外は科までの同定に留めた。

結果

鴨田川源流域湿原では、ヒメカイゾクコモリグモ属の未記載種(写真 1, 2)を含む、6 科 7 種のクモを確認した。また、夜沼周辺の草地及び夜沼川沿いの山道で、合計 3 科 7 種のクモを確認したほか、サラグモ科、コモリグモ科、タナグモ科、フクログモ科の幼体を採集したが、種の同定はできなかった。種または属まで同定した標本は以下のリストのとおりである。リストには採集年月日、雌雄及び成体と幼体の別、採集した標本については岩手県立博物館所蔵標本番号を示した。学名は谷川(2020)を参照した。



写真1 ヒメカイゾクコモリグモ属の一種
撮影地：鴨田川源流域湿原 2019年9月6日
撮影

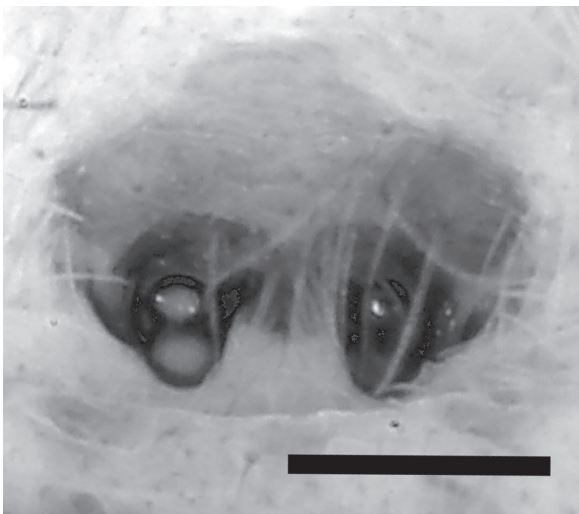


写真2 ヒメカイゾクコモリグモ属の一種の外雌器
標本番号：IPMM245048 スケールバーは0.2mm

標本リスト

- (1) 採集地 鴨田川源流域湿原 (八幡平市松尾寄木)
39.951736N, 140.953302E, 標高 795 m

コガネグモ科 Araneidae

- ナカムラオニグモ *Larinioides cornutus* (Clerck 1757)
2019.9.6 雄成体 IPMM245042
ナガコガネグモ *Argiope bruennichi* (Scopoli 1772)
2019.9.6 メス成体

キシダグモ科 Pisauridae

- イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* L. Koch
1878
2019.9.20 幼体 IPMM245049
2020.7.21 メス成体 IPMM245149

コモリグモ科 Lysosidae

- ヒメカイゾクコモリグモ属の一種 *Piratula* sp.
2019.9.20 メス成体 (卵嚢を保持) IPMM245047,
メス成体 IPMM245048, メス成体 IMPP245050

コマチグモ科 Cheiracanthiidae

- カバキコマチグモ *Cheiracanthium japonicum* Bösen-
berg & Strand 1906
2019.9.6 幼体 IPMM245041

エビグモ科 Philodromidae

- スジシャコグモ *Tibellus oblongus* (Walckenaer 1802)
2020.7.21 雄成体 IPMM245148

ハエトリグモ科 Salticidae

- オスクロハエトリ *Mendoza canestrinii* (Ninni 1868)
2020.9.6 雄成体 IPMM245038, 雄成体
IPMM245039, 幼体 IPMM245040

- (2) 採集地 夜沼周辺の草地 (八幡平市松尾寄木)
39.937405N, 140.903560E, 標高 1,190 m

アシナガグモ科 Tetragnathidae

- ヨツボシヒメアシナガグモ *Pachygnatha quadrimacu-
lata* (Bösenberg & Strand 1906)
2020.9.3 幼体 IPMM245375, 幼体 IPMM245376
アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878
2020.9.3 幼体 IPMM245373, 幼体 IPMM245374

コモリグモ科 Lysosidae

- キタハリゲコモリグモ *Pardosa Hokkaido* Tanaka &
Suwa 1986
2020.9.3 メス成体 (卵嚢を保持) IPMM245192
カイゾクコモリグモ *Pirata piraticus* (Clerck 1757)
2020.9.3 メス成体 (6 個体) IPMM245182, メス
成体 IPMM245372
アライトコモリグモ *Trochosa ruricola* (De Geer 1778)
2020.9.3 メス成体 IPMM245181

ハエトリグモ科 Salticidae

- オスクロハエトリ *Mendoza canestrinii* (Ninni 1868)
2020.9.3 雄成体 IPMM245183

(3) 採集地 夜沼川沿いの山道 (八幡平市松尾寄木)

39.927667N, 140.904694E, 標高 1,050 m

コモリグモ科 Lycosidae

カワベコモリグモ *Arctosa kawabe* Tanaka 1985

2020.9.3 メス成体 IPMM245180

考察

鴨田川源流域湿原にはヨシなど草丈の高い草本が生育しており、造網性であるコガネグモ科のクモが確認された。また、ヨシなどの葉を巻いて住居に使うカバキコマチグモも見られた。一方、背の高い草本が見られない夜沼の草地ではこれらの種が確認されなかったが、森林がすぐ近くにあることを反映して、森林やその周辺に多いキタハリグモやアライトコモリグモが確認された。

鴨田川源流域湿原で採集した小型のコモリグモ科の標本を、筆者は小野 (2009) に掲載された外雌器の図を参照し、ハテコモリグモ *Piratula borea* (Tanaka 1974) と同定していた。しかし谷川 (2021) は、この図がハテコモリグモ模式標本の外雌器とは異なることを指摘し、図と一致する外雌器を持つ標本をヒメカイゾクコモリグモ属の一種 *Pratula sp.* とした。本稿もこれに基づき、鴨田川源流域湿原で採集した標本をヒメカイゾクコモリグモ属の一種 *Piratula sp.* とした。今後、オス成体を採集して分類を明らかにしたい。

カイゾクコモリグモは湿地や (松田・柴多 1995)、小川や湖沼の縁で見られるクモで (小野 2009)、今回の調査地のどちらの環境でも生息できると考えられる。しかし、鴨田川源流域湿原では確認されず、その代わりに、外見がよく似ているヒメカイゾクコモリグモ属の一種が採集された。一方、ヒメカイゾクコモリグモ属の一種は、夜沼周辺では確認されなかった。このような分布の違いが生じたのは、鴨田川源流域湿原は踏み込むと水がにじみ出る湿潤な環境であるが、夜沼の草地は湿ってはいらぬものの、水が染み出すような湿地ではないといった湿潤度の違いや、夜沼の pH が 6.9 であるが (吉田 1989)、鴨田川源流域湿原に点在する沼の pH は 4.4~4.7 程度と酸性である (渡辺 2020 年調査未発表データ) などの違いが原因となっている可能性がある。今後、八幡平の他の場所でも調査を行い、この 2 種の分布の特徴や、環境ごとのクモ相の違いを明らかにしたい。

引用文献

- 土井信夫 (2005) 岩手県の大蛾類. 自刊.
- 福島彬人 (1997) 秋田県の真正蜘蛛類目録. KISHIDAIA 72 : 64-82.
- 井上幸三 (1986) 夜沼とはかの二つの湖沼の水草について. 岩手植物の会報 23 : 1-4.
- 環境庁自然保護局 (1995) 自然環境保全基礎調査 湿地調査報告書. 環境省.
- 松田まゆみ・柴多浩一 (1995) 十勝海岸部沼沢地のコモリグモ類. ひがし大雪博物館研究報告 17 : 65-71.
- 奥村賢一 (2016) 東北湯けむり温泉ヤチグモ紀行. KISHIDAIA 108 : 1-8.
- 小野展嗣 (編著) (2009) 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野市.
- 谷川明男 (2020) 日本産クモ類目録 ver. 2020 R2. <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf> (参照 2021/03/01).
- 谷川明男 (2021) ミナミコモリグモとハテコモリグモ. KISHIDAIA 118 : 68-70.
- 渡辺修二 (2021) 岩手県立博物館調査研究報告書 35 岩手県立博物館に寄贈された片岡佐太郎氏クモ類調査記録. 岩手県立博物館, 盛岡市.
- 吉田稔・若松善彦・千葉斐子 (1989) 岩手県の湖沼の調査研究 III 補遺および集成. 岩手大学農学部報告 19 : 65-72.

要旨

八幡平でクモの採集調査を行い、鴨田川源流域湿原で 6 科 7 種、夜沼周辺の草地及び夜沼川沿いの山道で 3 科 7 種を採集した。

キーワード：クモ, 湿地, 八幡平, 鴨田川源流域湿原, 夜沼